

# 目からウロコの投資塾

海野 みづえ氏

企業の社会的責任（CSR）について、最新の情報を、創コンサルティングの海野みづえ代表取締役

に教えてもらいます。



CSRといえば、コンプライアンスや企業倫理の徹底、社会貢献を思い浮かべる方も多いでしょう。しかしこれはCSRの基本部分でしかなく、最近では「地球規模での環境・社会問題に対し、事業を通して解決する」と考えられ、事業戦

## CSRの新潮流

①

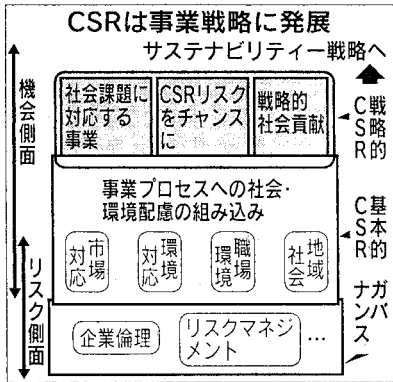
こうした国々では、地元の社会問題をビジネスの立場から解決し、社会の信頼を得ることが事業を展開するうえでのカギになります。多極化した21世紀型のグローバル経済の中で、CSRは企業代では、企業業績に環境競争力になるのです。まさに「問題あるところ、商机あり」で、この発想の転換がCSRでも起り、どんな要素がどの程度財務に影響しているかに関心が向けられています。利益を考える場合にも、CSRが無視できない

# 社会問題の解決が商機に

略にまで及んでいます。この流れは金融危機を機に世界の構造が変化するなかで顕著になっています。世界経済をけん引してきた先進国市場は、

策は、今や再生可能エネルギーの普及というビジネスの機会なのです。また、経済成長の中心が新興国に移っており、

《うんの・みづえ》経営コンサルティング会社勤務を経て、1996年に創コンサルティングを設立。CSRの視点から企業経営を支援。東大大学院新領域創成科学研究科講師。



これからの市場では、持続可能な社会と共生する「サステナビリティ戦略」こそが成功するビジネスモデルであり、欧米

# 目からウロコの

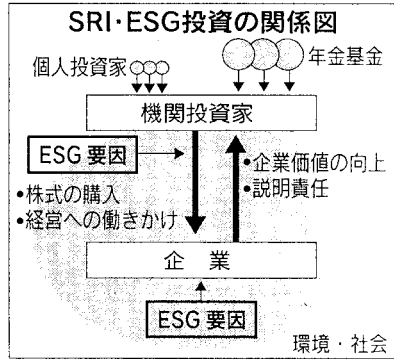
## 投資塾

海野 みづえ氏

これまで社会的責任投資（SRI）という、個人向けに設定された投資信託が中心でした。社会にいいことをしている会社を応援したい」という個人の理念を、ファンドの商品設計で実現したものです。

### CSRの新潮流

このため、日本では個人の意志を生かすファンドと考えがちですが、欧米では巨額の資金を抱える年金基金という機関投資家が、運用面で社会的に配慮する動きが



# 欧州年金、投資判断に活用

② まっていまるかを見いだそうとして  
す。います。

ファンドマネジャーが、環境・社会・ガバナンス（ESG）要因にも目を向けるようになり、社会的重視のSRIとは区別が「責任投資原則」が打ち出し、多くの機関投資

家が署名しています。こうしたESGに強い関心をもつ投資家は、「社会的課題」に対応した事業のイノベーション」が収益にどのよう貢献しているか、と企業が協力するといいます。「エンゲージメント」です。両者が長期的な信頼関係を構築することこそが株主価値向上につながるという考え方です。

株主にとっての企業価値とは、将来に向かって生み出される事業への期待の総和といえ、資本市場は将来志向（Forward-looking）です。経営者がどの程度ESGの面で前向きな成長戦略と事業計画をもっているか、どれだけ将来性があるかを投資家と共有できるようなコミュニケーションが必要で、資本市場でプラスの投資循環を築くことができるでしょう。

# 目からウロコの 投資塾

海野 みづえ氏

企業が持続的な成長戦略（サステナビリティ）を実践することは、持続可能な社会を構築することになり、さらに収益の創出につながります。このポイントには環境・社会・ガバナンス（ESG）要因をリスクと機会の中から

とらえ、特に事業機会を生み出す成長戦略を柱とした競争力のあるビジョンをいかに描けるかにあります。例えば温暖化問題などの環境ビジネスには、多

GE (電機)	環境分野の戦略「エコマジネーション」 → 新興市場の開拓に重点
ネスレ (食品)	途上国での農産物の安定調達 → 農村の地域支援で信頼関係を強化
テレノール	バングラデシュでの携帯電話事業 → 現地組織との連携

## 欧米、持続成長戦略で先行

### CSRの新潮流

③ レクトリッシュは、収益につなげるモデルです。別表に掲げた企業は、こうした姿勢を通じて原料・資源の安定調達や未開拓の巨大市場の開拓などに着々と手を打っている事例です。途上国ビジネスはリス

を明確に示しています。さらに、稼いだ収益を次いどの分野・市場に投資していくのかというメッセージが明快であるほど、投資家の資金は動いていきます。社会分野に関する持続的成長戦略とは、新興国や途上国で事業を通して貧困や衛生問題を解決

クの塊といえそうです。しかしそこは、40億人の隠れた新規市場です。ノールは、自国での展開以上に成長するには海外進出しかありませんでした。最貧国のバングラデシュへの進出という逆転の発想で、1億5000万人の市場で大きな成功を収めています。経済の最下層にビジネス展開する日本企業の例はまだわずかしかありません。支援や援助ではなく事業を通して貧困を解決し、さらに現地が自立できる経済をつくることでこれらの国が豊かになり、次の事業創出にもつながっていくのです。

# 目からウロコの 投資塾

海野 みづえ氏

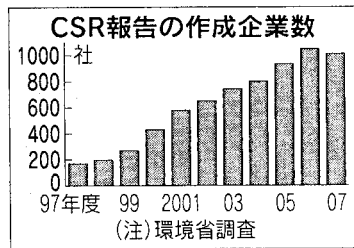
個人投資家として企業領域に入るともいえます。持続的な成長戦略に着目するには、どのような点に留意したらよいのでしょうか。

現在、社会的責任投資（SRI）として日本で提供されている投資信託のなかには、企業の

## 報告書など情報開示拡充

### CSRの新潮流

社会性を全般的に評価する商品のほかに、水資源やクリーンエネルギーなど特定の成長要因に絞ったものも多くなりました。こうしたファンドは「テーマ型」ファンドの



堅企業を中心に約1000社が発行しています。内容は、企業を取り巻くステークホルダー（消費者、社員、環境など）に対し、どのような取り組みをしているかを報告するものです。当初の目的が地域社会向けの情報開示なので、これらの活

④ けられてい 動が企業業績にどう結び つかっているかといった財 務的な解説にはなってい ません。それでも、今後 の長期的な業績を判断す るための有用な情報が盛 り込まれています。 欧州では、年次報告書 のなかにESG情報を掲 載する制度化の動きが始 まっています。石油・エ ネルギー会社などでは早 くから開示をしており、 日本企業にも今後、業績 や財務に関係づけたESG 情報の記載が広がるで しょう。

個人投資家向けに、C SR活動に焦点を当てた 説明会を設ける会社も出 ています。個人投資 家のSRI・ESG投資 への意識が強くなれば、 企業の持続的成長への力 も向上していきます。個 人がその必要性を企業に ぶつけることで、経済面 と社会面をともに達成す る競争力のある企業が育 つといえます。

(一)の項おわり